

生命環境特別演習

2 units 4th-year(1st semester, 2nd semester)

Yasuo Oyama · PROFESSOR / DEPARTMENT OF CIVIL AND ENVIRONMENTAL STUDIES

Target) 一般的には研究は論文として発表した場合にのみ評価される。しかし、自然科学系では学会発表やピアレビューを受けていない(審査制度のない)論文は評価されない。よって、得られた実験結果から「研究論文」を纏め、それを審査制度のある学術誌(国外, 英文)に投稿してみよう。

Outline) 生命科学系学術誌に研究論文を投稿する(可能ならば, 受理されるまで)。

Notice) 健康であること。とにかく、論文が受理されるまでは学生自身も教員もそれなりに大変です。

Goal) 卒業までに卒業研究が論文として受理されること。

Schedule)

1. 研究論文を纏めて、それを学術誌に投稿し、レフリー(査読者)のコメントに答えて論文が受理され、学術誌に論文が掲載されるまで、そのプロセスで必要な実務を体験させます。
2. (前期)1-, 2-および3-実験結果の精査および不足分の確定と追加(実験は3年次に行った分)
3. (前期)4-, 5-および6-投稿先の決定, 論文フォーマットの確認および論文構成の確認
4. (前期)7-論文書き。まずは簡単な「方法」から。
5. (前期)8-, 9-および10-論文書き。次に簡単な「結果」を。
6. (前期)11-, 12-および13-論文書き。「考察」を。引用文献を読みながらで、これは苦しい。
7. (前期)14-, 15-, 16-論文書き。「緒言」を。「緒言」は、なぜ、実験をしたのか、その意義付けである。普通は最初に書くが、ここでは最後に書く。その理由を解説しながら、論文指導を行う。仕上げ、夏休み前に投稿。
8. (後期)1-, 2-および3-投稿した論文をどうするか。前期に投稿した論文は2か月以内に審査は終わり、戻ってくる。その審査結果により、ここからの講義内容は変わる。最も多いケースを想定して、以下の予定で講義を進める。
9. (後期)4-および5-投稿した論文をどうするか。改訂を求められた場合はそれに従い、追加実験および論文内容の改訂を検討する。
10. (後期)6-, 7-および8-追加実験を行う。
11. (後期)9-, 10-および11-査読者のコメントに対する回答(論文の改訂も含む)を書く。
12. (後期)12-冬休み前に再投稿を行う。
13. (後期)13-再投稿した論文の審査は早いので、2週間程度で戻ってくる。そ

の審査結果により、ここからの講義内容は変わる。最も多いケースを想定して、以下の予定で講義を進める。

14. (後期)14-査読者のコメントの精査を行う。

15. (後期)15-コメントに沿って論文改訂を行う。

16. (後期)16-論文の最終稿を再々投稿し、審査結果を待つ。

Evaluation Criteria) 論文が受理されたら、満点。論文の受理が時間的に間に合わない場合は、そこまでのプロセスで評価します。

Re-evaluation) 講義の内容上、再試は行えません。

Textbook) 研究室の先輩たちが残した論文(過去二年分)を参考にします。それらは<http://pub2.ait230.tokushima-u.ac.jp/survey/person/60453/>を見て、電子ジャーナルでダウンロードして下さい。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219378>

Contact)

⇒ Oyama (総合科学部 3号館 3N06, oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: いつでも可。研究室にいない時はメールしなさい。)